

- 柳沢公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
- 田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

- 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 保谷駅前公民館 東町3-14-30 TEL 421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



公民館の学びから、人間らしく生きることを学びました
永田和子さん (73歳)

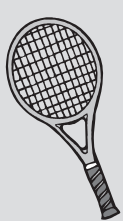
静岡県で生まれ育った永田さんは、戦中・戦後の苦労も体験して

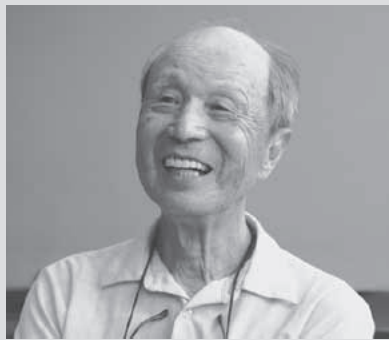
大学時代は、原水爆反対運動にも参加しました。
「結婚後も仕事を続けたかったけれど、家族の身体が弱かったこともあってね…」
PTA活動を経て、32年前に芝久保町に転入。芝久保公民館の設立当初から運営に関わってきました。今も芝久保公民館利用者連絡会のメンバーとして、サークルと公民館をつないでいます。
芝久保公民館では「昭和史を考える講座」に参加し、人権について深く考えるようになり、「昭和史を考える会」を立ち上げて10年間。環境講座に参加して「西東京自然

を見つめる会」を立ち上げて20年間、活動を続けています。
公民館では、講座や仲間との学習を通して「だれもが人間らしく暮らせるようにする」ための課題を学びました。
今楽しんでいるのは…
三世代交流事業で地区会館の子どもたちと遊ぶことかしら…。
「平和のために人をしなへん」と。いつも平和のために役立つことをしたい。
永田さんを常に突き動かしている原動力は平和への熱い思いなのかもしれません。

谷戸まつりのビデオ撮影や編集で大活躍の中澤さんは、23年前に谷戸公民館で開催されたビデオ講座の終了後に立ち上がった「西東京ビデオ同好会」の会員です。
師範学校卒業後に歩兵を経て飛行学校に入学。師範学校時代の仲間37人のうち20人が戦死しました。操縦していた飛行機の整備不良で不時着したこともあり、「爆弾を積んでいたのに無事だったのは、本当に運が良かった」と振り返ります。
昭和26年から谷戸町で暮らし始

め、小学校の校長をしていた頃、朝の8時に子ども達を集め、テニス教室を開きました。当時それが珍しくて、テレビ局や新聞社が取材に訪れたことも。
中澤さんは、今でも週3回はテニスを楽しんでます。本や雑誌を読むのも楽しい時間です。
大事にしているのは…
「仲間との関わりです。仲間から学ぶことが、自分の進歩や成長になるんです。学んだだけで終わりにせず、実際に行動して続けることを心がけています」
79才でパソコン教室に通い始めた中澤さん。囲碁の腕前は二段で、谷戸公民館で活動する互楽会囲碁将棋同好会のメンバーでもあります。昨年買ったパソコン用の囲碁

ソフトに、最近勝てるようになってきたのだとか。
職場体験で取材に参加した中学生も、これには目を輝かせ「すごい！」と感心しきりでした。
好奇心と努力の人、中澤さんは日々進化し続けています。




9月19日の「敬老の日」にちなんで、地域で活躍していらっしゃる4人にお話を伺いました。年輪を重ねて、豊かに花開いた大先輩の日々の暮らしの一端を、素敵な笑顔とともにお届けします。

はなまるる人生まっしぐら

素敵に年を重ねて

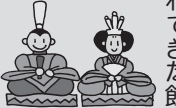


笑顔求めて、ものづくりを…
飯島英夫さん (79歳)

芝久保公民館のロビーで、毎年雛まつりの季節に大豆雛の展示と指導をしている飯島さん。飯島さんの大豆雛を見ると、小さな大豆に描かれた大豆雛の顔の表情が愛らしく、


どれも穏やかに笑っています。この表情は、「ご自身が子ども達からもらったもの。喜んでくれる子ども達の笑顔を思い出しながら目や口を描いています」。
小学校2年生のときに満州に渡り、当時からものづくりが好きで、小さい子ども達を集めてものづくりをして遊んでいました。
本格的なものづくりのきっかけは、青少年育成のための子ども達への「風つくり」から。体育館の裏でたむろしていた中学生たちに声を掛け、「風つくり」指導のサポート役に誘い、中学生と一緒に子ども達に指導したことから始まりました。

「やんちゃな中学生が、子ども達に教えているときは、本当にいい表情をするんだよね」
大豆雛を作り始めたのは？
3人の娘たちのため。当時2人分の雛人形しかなかったから…。
今、楽しんでいるのは…
「草木の手入れをしたり、桜の花のつくまでの過程を見るのが好き。草木は子育てと同じで、手を入れ過ぎても、手を入れなさ過ぎても上手く育たない。必要なのは愛情と試練だね」
ものづくりを重ねてきた飯島さんの力強い「手」は、今も新たな命を生み、育て続けています。



「残り少ない道手を組んで、足鳴らし歩きたい歩きたい」
これは、北澤さんが書いた『支えあいの中から』という詩の最後の一節です。
文学青年の面影を残し、白い帽子にサーモンピンクのシャツという洒落な格好で現れた北澤さんは「自称、宴会部長です！」と笑顔で語り始めました。
北澤さんは、公民館を拠点に「老人クラブ金曜会」「古典に親しむ紫の会」「豊かな老い」などを立ち上げた。その後、福祉活動を開始。これらの活動が続ける中で、他人を尊重しながら協

力して自発的に行動する素晴らしい仲間と出会い、活発な意見交換を重ねてきました。
自作の紙芝居づくりと上演
組織的で継続的な支えあいネットワークを構築するために、当事者である高齢者自身が自分たちの課題に関心を持つ必要がある。そう考えた北澤さんは、高齢者の課題を楽しい紙芝居に仕立てて市内各地で上演するようになりました。
今、楽しんでいるのは…
宴会で皆を楽しませること。
モットーは？
「皆のために何かをし、自分のできることはないか」とも探していること。
ウクレレ漫談で見せるユー

モアのセンスと、繊細な思慮深さの両面を併せ持つ北澤さん。
今も、高齢者が終末期を安心して過ごせるようにという願いを込めて「24時間体制の介護、看護、医療の連携」をテーマにした紙芝居を製作中です。「かめ造さん」「あっこさん」に続く第3作目をお楽しみに。


お年寄りが終末期を在宅で安心して迎えられることを願って
北澤実夫さん (86歳)

北澤さんの紙芝居の展示
9月15日(木)～21日(水) 西東京市民会館1F
紙芝居上演
11月19日(土) 15時～
西東京市民会館 5F プレイールーム